

安全データシート (SDS)

作成 1998年7月23日
最終改訂 2024年4月17日

1.【化学物質等及び会社情報】

製品	製品の名称	アルセン スーパーHG
供給者情報	会社名	アルタン株式会社
	住所	東京都大田区東糀谷3-11-10 マーケティング室 開発企画課
	電話番号	03-3743-5705
	FAX番号	03-3743-5706
	緊急連絡先	同上

2.【危険有害性の要約】

GHS分類	
物理化学的危険性	分類基準に該当しない
健康に対する有害性	
皮膚腐食性・刺激性	区分1
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分1
特定標的臓器・全身毒性(単回曝露)	区分2(中枢神経系、呼吸器系)
環境に対する有害性	
水生環境急性有害性	区分3
(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、 上記以外の項目は、現時点で「分類できない」又は「区分に該当しない」である。	

絵表示又はシンボル



注意喚起語 危険

危険有害性情報

重篤な眼の損傷や皮膚の薬傷
中枢神経系、呼吸器系に障害の恐れ
水生生物に有害

注意書き 【安全対策】

粉塵・煙・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。
取扱い後はよく洗うこと。
この製品を使用する際に、飲食または喫煙をしないこと。
環境への放出を避けること。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

【救急処置】

飲み込んだ場合 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
皮膚(または髪)に付着した場合 直ちに汚染された衣服をすべて脱ぐこと。皮膚を流水・シャワーで洗うこと。汚染された衣服を再使用する場合は洗濯すること。
吸入した場合 新鮮な空気のある場所に移動させ、呼吸が楽な姿勢で休憩させること。直ちに医師に連絡すること。
眼に入った場合 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師の診断、手当てを受けること。
曝露または曝露の懸念がある場合 医師に連絡すること。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3.【組成・成分情報】

単一製品・混合物の区別 混合物
成分及び含有量

化学名	含有量(wt%)	CAS No.	化審法番号	労働安全衛生法	PRTR法
ポリオキシアルキレン アルキルエーテル	5～10	非公開	非公開	通知対象外物質	非該当
水酸化カリウム	1～5	1310-58-3	—	通知対象物質	非該当
水酸化ナトリウム	1～5	1310-73-2	—	通知対象物質	非該当
ジエチレングリコール モノブチルエーテル	10.0	112-34-5	2-422	通知対象物質	該当
金属封鎖剤	非公開	非公開	非公開	通知対象外物質	非該当
色素	非公開	非公開	非公開	通知対象外物質	非該当
その他	非公開	非公開	非公開	通知対象外物質	非該当

4.【応急処置】

目に入った場合 こすらずに、すぐに流水で15分以上洗眼する。
症状が軽減しない場合、医師に相談する。

飲み込んだ場合 すぐにコップ1～2杯の牛乳または水、あるいは生卵を飲ませる。
※吐物や泡が気管に入ると肺炎を起こす可能性があるため、無理に吐かせない。
また、自然に嘔吐が生じた場合は、吐物を吸入しないように注意する。
嘔吐や下痢症状が激しかったり、様子がおかしい場合は医師に相談する。

5.【火災時の措置】

本製品は不燃性であるが、加熱した場合、着火元があると燃えることがある。

消化方法 消火作業の際は風上から行き、適切な保護具を着用し、
周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
必要に応じて、呼吸用保護具も着用する。

初期の火災 水、粉末、泡沫、炭酸ガス
大規模火災 大型泡沫消火器が有効である。
周辺火災 可能な限り容器を安全な場所に移動する。
消火剤 水、粉末、泡沫、炭酸ガス

6.【漏出時の措置】

漏洩した場所周辺にはロープを張るなどして、人の出入りを禁止する。必ず不浸透性の保護具を着用し、
風下で作業をしない。少量の場合は布巾などで拭取る。大量に流出した場合は回収して
適当な容器に入れる。

7.【取り扱い及び保管上の注意】

取扱い 眼、皮膚及び衣類等に触れないように、また、吸引しないように保護具を着用する。
保護具はいずれも不浸透性のものを使用する。
取扱い後は、手、顔、身体をよく洗う。
容器は手荒な扱いをせず、内容物の漏洩を防止する。

保管 直射日光を避け、風通しのよい室内に密栓して保管する。
詰め替え等の作業時 眼に入らないように適切な保護具を着用し、容器が破損しないように、乱暴な
取り扱いを避ける。

8.【暴露防止及び保護措置】

管理濃度		設定なし
許容濃度	日本産衛学会 ACGIH	設定なし 設定なし
設備対策 保護具	取扱い場所の近くに水洗、洗眼装置を設置する事が望ましい。 作業着、安全靴、ゴーグル型保護メガネ及びゴム製保護手袋を着用すること。 必要に応じて、顔面シールド、ゴム長靴及びミスト防止マスクを着用すること。 ※ 保護具はいずれも不浸透性のものを使用する。	

9.【物理的及び化学的性質】

状態	液体
----	----

色調	青色透明
臭気	特異臭
pH	14以上
融点	データなし
沸点	データなし
引火点	データなし
燃焼または爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重	1.000～1.100(25°C、原液)
溶解度	水に溶解する
n-オクタノール/水分	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
その他	-

10.【安定性及び反応性】

化学的安定性	通常の条件では光、熱、衝撃に対して安定
可燃性	消防法に該当しないが、過熱などにより着火元があると燃える。
発火性	通常の条件ではなし

11.【有害性情報】

製品としてのデータがないため、水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、ジエチレングリコールモノブチルエーテルとポリオキシアルキレンアルキルエーテルの混合物としてGHS分類を行なった。	
皮膚腐食性・刺激性	カットオフ値判定の結果、区分1とした。
眼に対する重篤な損傷・眼刺激	カットオフ値判定の結果、区分1とした。
特定標的臓器毒性・単回曝露	カットオフ値判定の結果、区分2(中枢神経系、呼吸器系)とした。
※上記以外の項目については、「データなし」である。	

12.【環境影響情報】

製品としてのデータがないため、水酸化ナトリウム、水酸化カリウムの混合物としてGHS分類を行なった。	
水生環境急性有害性	加算式判定の結果、区分3とした。
水生環境慢性有害性	加算式判定の結果、区分に該当しないとした。

GHS分類に該当しない情報

漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与えることがある。特に製品や洗浄水が地面、河、排水溝に直接流れ込まないようにする。

13.【廃棄上の注意】

廃薬品、容器などの処理は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をし、処理すること。
 廃水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法規に従って処理を行なうか、委託を行うこと。
 焼却処理をする場合には、珪藻土、布などに吸着させて開放型の焼却炉で少量ずつ焼却すること。
 界面活性剤を含有するので、廃水処理をする場合には、凝集沈殿、活性汚泥処理などの廃水処理により、法律及び関係する法規の規制値以下にして河川などに排水する。

14.【輸送上の注意】

特別の安全対策	取扱い、保管上の注意の項の記載による他、一般的注意事項に従う。 容器に漏れがないことを確認し、転倒、落下、損傷がないように積み込む。 輸送中に互いに衝突して破損することのないよう、予め適切な緩衝材を詰めるなどの処置をし、荷崩れ防止を確実にこなうこと。
国際規制	
国連分類	クラス8(腐食性物質)
国連番号	3267(その他の腐食性物質)
国内規制	
陸上輸送	法規に該当する場合は、それぞれに定められている運送法に従う。
海上輸送	船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送	航空法に定められている運送方法に従う。

15.【適用法令】

化学物質管理促進法(PRTR法)	第一種指定化学物質 管理番号:627(10.0%) ジエチレングリコールモノブチルエーテル
------------------	--

化審法	該当しない
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険有害物 水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、 ジエチレングリコールモノブチルエーテル リスクアセスメント対象物質 水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、 ジエチレングリコールモノブチルエーテル 皮膚等障害化学物質 該当
毒物及び劇物取締法	該当しない(水酸化ナトリウム含有量5%未満)
水質汚濁防止法	施行令(排出基準)BOD、COD
消防法	該当しない
船舶安全法	該当しない

16.【その他の情報】

記載内容の問い合わせ先	アルタン株式会社
住所	東京都大田区東糞谷3-11-10
担当部門	マーケティング室
電話番号	03-3743-5705
FAX番号	03-3743-5706

改訂履歴

作成	1998年7月23日
改訂	2006年2月27日
改訂	2016年4月13日
改訂	2016年9月12日
改訂	2022年4月7日
改訂	2022年9月6日
改訂	2023年3月30日
改訂	2023年8月31日
最終改訂	2024年4月17日

注意

- ・この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
- ・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。
- ・注意事項は通常の取扱いを対象としたものですが、特別な取扱いをする場合には、新たな用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。
- ・すべての化学品には未知の有害性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要です。
- ・ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。